

瀬戸内国際芸術祭に 香川大学も参加します！

2

2010年に、香川県沖の島を中心に開催された「瀬戸内国際芸術祭」は、延べ約94万人の来場者を迎え、大成功に終わりました。香川大学内にも、ボランティアサポーター・こえび隊の分室が生まれ、高松市の観光PRを目的とした新聞を発行するなど、大学生ならではの視点で盛り上げました。瀬戸内国際芸術祭は、2013年に第2回開催が決定し、以降は3年ごとに継続開催の予定です。第2回以降、大学を挙げて芸術祭に参加する香川大学では、その準備がすでに始まっています。香川大生として芸術祭に参加する方法は、大きく3つあります。ひとつは教員たちの研究を通じて参加する方法。ゼミとしての参加などが、これに当てはまります。もうひとつは、芸術祭実行委員会と連携を取りながら参加する方法。これは前回同様、こえび隊分室としての動きです。3つめは、芸術祭参加を目的に集まった香川大生が、自分たちでプランを考え、自分たちで実行する方法です。芸術祭参加の窓口である学生生活支援グループのリーダー・安藤俊弘さんは、この学生主体の参加に大きな期待を寄せています。

大学祭やミッド・ブラザのイベントなど、学生の課外活動を長年サポートしてきた安藤リーダーは、芸術祭は学生にとって絶好のチャンスだと考えています。「大学生にしかできないことをやりたいが、何をやればいいのかわからないという学生が多い」と今の大学生の心理を分析しながらも、うまく舞台を用意してあげれば、消極的だった学生がびっくりするような活躍を見せてくれるということも知っています。芸術祭への参加は、その舞台にびつたりというわけです。

「学外の大人と関わりながら、自分で計画したことを実行した学生は大きく成長するというのが私の持論。そういう学生は、就職活動でも光っています。積極的に芸術祭に参加して、勉強やアルバイトでは得られない経験をしてほしいですね。」芸術祭に参加することで、日本国内だけでなく世界から集まってくる観光客とふれ合うことになり。同時に、近くにありすぎて気付いていない香川県の魅力を知る機会にもなります。世界とつながる体験と、地元を深く知る体験。その両方を二度に経験できるのは、香川大生ならではの特権かもしれません。すでに参加の意志を表している学生の中には、今回新たに芸術祭の開催地として加わった伊吹島出身の学生がいるそうです。「自分たちの活動を島おこしにつなげたい」という熱い想いを聞かされて、「最近の若者は元気がないなんて言われますが、香川大生は違う！と驚かせたいですね」と、今から胸を躍らせています。

安藤リーダーは、学生からおもしろいアイデアが出れば、カタチになるようサポートしたいと考えています。頼もしいサポートを追い風に、あなたのアイデアを芸術祭に届けるチャンスです。



KEYWORD

[瀬戸内国際芸術祭]

2010年に高松港周辺と香川県沖の6つの島十犬島を舞台に開催された現代アートの祭典。2013年に第2回の開催を控えており、沙弥島、本島、栗島、伊吹島、高見島の5島が会場に加わる。以降は3年ごとに開催を継続する予定。

